



第3回新潟大学佐渡三施設森里海公開シンポジウムをあいぽーと佐渡で開催。



佐渡演習林の天然スギを漬込んだお酒。(尾畑酒造株式会社 学校蔵プロジェクト)



宿泊・セミナー施設、梶井ハウスの庭では銀杏が大豊作!



五十嵐キャンパス農学部で木工品の販売を行いました。



新潟大学演習林ニュースレター Niigata University Forest Newsletter

新潟大学農学部附属フィールド科学教育研究センター 佐渡ステーション

第6号 2016年12月

バーチャルリアリティで佐渡の森を散策

最近、様々な分野で話題になっているバーチャルリアリティ (VR) をご存知ですか? VR は、ヘッドマウントディスプレイ (HMD) という専用のゴーグルを装着し、仮想現実の世界を体験できるものです。特にゲーム業界では、この数年で VR ゲームが続々と発売され話題になっています。この VR 技術を利用し、10月22日～30日に五十嵐キャンパスを中心に開催された「新潟大学 Week2016」の中で、佐渡演習林のスギ天然林を体験できるイベント「佐渡の演習林へレポート」が実施されました。



VR用の360°の映像を撮影することができるカメラ。

このイベントでは、専用のカメラを用いて実際に佐渡演習林のスギ天然林を撮影する所からスタートしました。当日は、小雨がぱらつく気分で、霧気抜群の霧にまつまれたスギ天然林を撮影することができました。撮影に使用された専用のカメラは、目玉のような形で、小型化・軽量化されており、山の中でも楽に移動できるものでした。このカメラで360°撮影された映像を編集し、VR用の映像を制作するそうです。映像は、専用のゴーグルを装着することで、上を向いても下を向いても本当にスギ天然林の中に見えることができます。

2016年度FC成果発表会

フィールド科学研究教育センター(FC)の成果発表会が12月9日、新潟大学の五十嵐キャンパス農学部で開催されました。この成果発表会は、フィールドを利用した研究・教育活動、さらには他大学との共同利用や地域連携などを紹介し、フィールド研究への理解を深めるとともに関係部署との連携強化を図ることを狙いとし、毎年開催されています。今年の発表会では、農学部の学生を中心とした82名の参加がありました。佐渡ステーションからは、本間航介准教授が基調講演として「東アジア照葉樹林帯における里山、棚田の現在と未来」、本間大也技術補佐員が成果発表として「最近の演習林における技術職員の仕事の多様性」の計2件の発表を行いました。成果発表では、

イベント本番では、約1時間の待ち時間も出るほどの大盛況で、実施された2日間で計250名の参加がありました。佐渡研究室の学生たちもスタッフとして参加し、参加者に佐渡演習林の説明などを行いました。

はじめてVRを体験する参加者も多く、「本当に森の中を歩いているようだった」、「雨や風などもリアルに感じられた」など、VR技術に驚きの声が多く聞かれました。また、佐渡演習林、佐渡のスギ天然林に対しても興味や理解を深めた方が多く、「実際に行ってみよう!」との声も多く聞かれました。

イベントに足を運んで下さった皆さま、ありがとうございました。



専用のゴーグルを装着し、VRのスギ天然林を散策中。



VR体験の待ち時間では、佐渡研の学生が演習林の説明を行いました。

近年、技術職員の業務が演習林の運営管理、教育・研究活動の支援などに多様化する一方で、運営方針の転換により、森林管理業務が減少している事が報告されました。また、重要な課題の一つとして、森林管理業務が減少する中で、その技術継承に積極的に取り組むことが挙げられました。



佐渡演習林で一番の若手である本間技術補佐員。

シリーズ

実習紹介② マイマイカブリに焦点をあてた野外実習

サドマイマイカブリ *Carabus blaptoides capito*

私は佐渡島で長年フィールド調査を行ってきた経緯から、2014年に東邦大学に着任以降、新潟大学農学部附属フィールド科学教育研究センターの共同利用申請を行い、マイマイカブリに焦点をあてた野外実習を行ってきました。マイマイカブリとは日本列島に広く分布するオサムシで、頭胸部が著しく細長いという特異的な形態をした昆虫です。この細長い頭胸部は、カタツムリへの採餌適応として進化したと考えられています。より細長いマイマイカブリほどカタツムリの殻に頭を突っ込んで食べる上で有利だったため、細長い形態をもつマイマイカブリが自然選択の過程で生き残りやすかったと考えられるためです。ところが、大変興味深いことに、佐渡島に生息するサドマイマイカブリは頭胸部が太短い形態をしています。頭が

細長くなることでカタツムリに採餌適応したマイマイカブリが、なぜ佐渡島では頭が太短く進化しているのでしょうか？太短いサドマイマイカブリはどのようにカタツムリを採餌するのでしょうか？実は、同様の形態変異はマイマイカブリに限らず陸貝を専食とする他のオサムシでも多数報告されています。なぜ貝食性オサムシは形態的多様性が高いのか。この間は私自身がずっと探求してきた学術研究テーマです。このような生物多様性の謎を直に体験することを目的に、佐渡島でのマイマイカブリ実習を行ってきました。佐渡ステーション演習林スタッフの手厚いご協力のもと、ビットフォールトラップによるマイマイカブリの採集および陸貝を用いた行動実験を行い、いかにサドマイマイカブリが佐渡島の陸貝に適応進化したか実習を通して学習します。座学を中心とした講義では理解できない生態学・進化学の重要概念を学ぶことができる点で、本実習は教育上大きな意義があります。今後も演習林の共同利用を通し、大学間の交流をもとにした教育活動に努めていきたいです。

(東邦大学理学部 講師 小沼順二)

演習林の現場より③ 佐渡の魅力を学生たちに伝えたい

今回は、佐渡ステーションの事務補佐員の石塚しのぶさんにインタビューしました。佐渡演習林は、日本で唯一離島にある演習林ですが、事務のお仕事にも島ならではの良さがあるようです。

副生産物の販売も担当します。
左:事務補佐員 石塚
右:施設管理員 川嶋

—具体的にどのような事務のお仕事をされていますか？—

実習や調査で演習林を使用する際の事務手続き、佐渡ステーション運営のための会計管理、職員の労務管理やそれらに関する大学本部との事務連絡です。他にも細かな仕事が多くあり、人手が足りないときは、事務以外のお手伝いもしています。基本的に、業務時間内で、私ができる事であれば何でもやります(笑)。

—この仕事をしていて、大変なことやうれしいことは何ですか？—

ちょっと大変だなと思うことは、五十嵐キャンパスの農学部と書類のやり取りをする際、海が荒れると船が欠航になり、書類の郵送が遅れてしまうことです。もちろん、インターネットでのやり取りもできるのですが、実はネットも不通になることがあるので…。

うれしいことは、教員や学生さん達が実習を終えて帰られる際に、

笑顔でお礼の言葉を言ってくれる事ですね。また、佐渡研究室の学生達が卒業・修了して社会人として旅立つ時は、親のような心境になり、“がんばれー、何時でも遊びにおいでー”と声をかけています。

—今後の抱負などをお願いします—

佐渡ステーションに勤めて、今年で4年目になります。佐渡ステーションのある外海府地域に長年住んでいることもあり、あっという間に馴染むことができました。これからも教職員、学生さん達や地域の方とコミュニケーションを取り、ステーションの運営が円滑に進むように日々頑張っていきたいと思っています。佐渡ステーションは佐渡島の中でも過疎地域にあるので、様々な面で都会のように行きません。でも、この地域ならではの魅力もたくさんありますので、それを実習で来島する学生さん達に伝えていければと思います。



外海府の海にしずむ夕日を学生さんたちに是非見てもらいたいです。

(インタビュー：事務補佐員 石塚しのぶ)

お知らせ 平成29年度共同利用実習の申込みについて

佐渡ステーションでは、平成29年度を受託型、フィールド利用型の共同利用実習の申込みを受け付けております。共同利用実習をお考えの大学は、ホームページで共同利用実習の詳細を確認し、事前に電話又はメールにてご連絡をお願いいたします。公募型の共同利用実習につきましては、日程等決まり次第、順次ホームページでお知らせいたします。

編集後記: 皆様、本年も佐渡ステーションをご愛顧いただきありがとうございました。来年からは、ニュースレターを定期的に発行する予定です。掲載記事のリクエストがありましたら、お気軽にお知らせ下さい。(特任助手 菅尚子)

共同利用実習募集中!

佐渡ステーションでは、共同利用実習、演習林での調査・研究の受け入れを随時行っています。お気軽にご相談ください。

実習の様子などをブログで紹介しています

佐渡研究室 検索

新潟大学演習林ニュースレター

編集・発行:新潟大学農学部フィールド科学教育研究センター 佐渡ステーション

〒952-2206 新潟県佐渡市小田94-2

tel: 0259-78-2613 fax: 0259-78-2929 e-mail: sadoken2011@gmail.com

ホームページ http://www.agr.niigata-u.ac.jp/fc/sado_html/sado_index.html

リサイクル適性 (A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。